

第5回(2012. 7.10 配信)

篠井純四郎の日本史講座－「間違えやすい日本の古い時代の話」

『古事記』と『日本書紀』

『古事記』と『日本書紀』とは日本最古の歴史書ですが、両書の違いはどこかを知っている人は少ないようです。なかには、どちらも同じもので、呼び方が違うだけだ、と答えた人もいました。そんなバカな！と思う人もいるでしょうが、面倒がられ嫌われた調査(と言えるほどのものではありませんが)事実なのです。ですから、同時代に同じ天皇の命令で作られた書だとか、なぜ二冊の歴史書が作られたのか、などのことは知らない人がいるは当然でしょう。こういったことは、外国人に質問されて初めて「はてな……」と思う人が普通なのですが、「知らない」などと言うのも恥ずかしいし癪だから、適当なことを言って、さまざまな誤解を招くようなことを教えてしまう人もいます。こういった見栄を張ることだけはやめましょう。

『古事記』は長い間皇室や氏族などに受け継がれてきた伝えをまとめた歴史書です。天地創造から推古天皇(第33代天皇)までの伝記を漢字の音(おん)を使った文字で記録しています。稗田阿礼(ひえだのあれ)が整理・誦習し、太安万侶(おおのやすまろ)が筆記して712年に成立しました。

『日本書紀』は大勢の学者によって40年を費やして編纂された歴史書で720年に成立しました。天地創造から持統(じとう)天皇(第41代天皇)の時代までを漢文で書かれています。多くの学者によって編纂されたらしいのですが、その氏名は記されていません。どちらも8世紀、天武(てんむ)天皇(第40代天皇)の命によって編纂されました。両書をまとめて『記紀』と呼ばれています。なぜ天武天皇は二冊も歴史書を書かせたのかは不明ですが、どうも『日本書紀』は中国の『史書』にならって外国向けに作成され、『古事記』は国内向けに編纂されたのではないかと考えられています。

音(おん)による『古事記』と漢文による『日本書紀』では、人名などの表記に若干違いがあり、たとえばアマテラスオオミカミは、『古事記』では「天照大御神」、『日本書紀』では「天照大神」、ヤマトタケルノミコトは、『古事記』では「倭建命」、『日本書紀』では「日本武尊」などと表記されています。また、漢字だけでなく内容にも若干の違いがありますが、初代天皇の神武(じんむ)天皇(紀元前660年)以前の話を「神代(かみのよ)」(※1)と呼び、神武天皇からは人間社会として考えられていたようで、日本の誕生(※2)やアマテラスの誕生(※3)などから始まる「神話」と称するのは神武天皇以前の話です。

日本が文献に現れてくるのは、中国の『漢書』の『地理志』です。前漢(紀元前206～紀元8)の時代で「倭国は百余国に分かれている」と書かれています。また、後漢の建武中元2年(57)に「倭の奴国が朝貢してきた」とあります。この時、漢の光武帝が金印を贈ったといいますが、それが教科書に登場する「漢委奴国王」の金印だと思われています。同じ後漢の107年には、倭の国王たちが奴隷16人を献上した記録がありますが、これらは、『後漢書』の『東夷伝』に書かれたものです。

有名な『魏志倭人伝』は、『魏書』の中の『東夷伝』の『倭人の条』のことです。『魏書』は三国時代の魏がまとめた公式の歴史書で、3世紀末、中国の晋王朝の史官である陳寿が書いたとされる『三国志』のひとつです。古代中国では代々天下を統一した王朝が自国の歴史書を編纂してきました。当然自国と皇帝の都合のいいように書かれているとは思いますが、そもそも中国は自分たちだけが礼儀正しく立派だから「中華」であって、回りは南蛮(なんばん)、東夷(とお

い)、西戎(さいじゅう)、北鯀(ほくてき)という野蛮人が住んでいると考えていました。つまり、朝鮮半島の人や日本人は東夷、すなわち東に住む野蛮人だと思っていたから、4000年の歴史を持つ中国から見れば、日本なんぞはごく最近のし上がってきた成り上がり者なのです。だから、明治から昭和にかけて、日本人に武力で言うことを聞かされてきた中国人には耐えられない屈辱なので、日中外交においても、常に「過去の不幸な歴史」という枕詞をつけるのはそのため、かもしれません。

『古事記』や『日本書紀』は、どちらも天皇の命令によって書かれた歴史書ですから、天皇家の都合のいいように書くこともあったかもしれないし、また神武天皇が即位したのは紀元前660年だとしていますが、そのころ日本は縄文時代です。『魏志倭人伝』に出てくる卑弥呼(西暦240年頃)ですら、弥生時代後期だから、『記紀』の信憑性を疑問視する学者も多いわけです。しかし、『旧約聖書』だってユダヤ人の苦難の闘いを自分の民族中心に書いた伝説です。『魏志倭人伝』など中国の『史書』だって、自国や皇帝の都合のいいように書いていることでしょう。『古事記』や『日本書紀』などの文献も、時がたてば記述を裏付けたり、間違いがあれば明らかになったりすることでしょう。「外国の文献は正しくて日本の記録はいいかげんだ」と言う人は、戦前では「非国民」といって処罰されました。今は言論の自由という「錦の御旗」の下に勝手なことが言えますが、しかし、このような文書が日本にも残されていたことを、日本人は素直に自慢して良いのではないのでしょうか。

(※1) 神代

『古事記』によれば、天と地が分かれてまだ水に浮かぶクラゲのようなふわふわした状態のとき、天上界の高天原(たかまがはら)に最高神・天之御中主神(アメノミナカメシノカミ)、天上界の創造神・高御産巢日神(タカミムスビノカミ)、地上界の創造神・神産巢日神(カムムスビノカミ)が現れ、次ぎに命を吹き込む神・宇麻志阿斯詞備比古遲神(ウマシアシカビヒコジノカミ)、天上界の永久を守る神・天之常立神(アメトコダチノカミ)という性別のない神が現れ、そしていつの間にか消えていきました。この五神を特別な神として「別天神(コトアマツカミ)」と呼んでいます。『日本書紀』にはこの神々は登場していません。

その後、国土を永久に守る神・国之常立神(クニトコダチノカミ)、二代目の豊雲野神(トヨクモノカミ)が現れます。この二神はどちらも独り神ですが、三代目からは次々と男女二神ずつの神が現れて、七代目に男女がお互いに求愛する男神・イザナキノミコトと女神・イザナミノミコトが現れました。この二神と五組の神々を「神世七代(カミヨナナヨ)」と呼んでいます。

(※2) 日本列島の誕生

イザナミがイザナキに向かって「なんといいい男なんでしょう」と言い、その後にイザナキがイザナミに「なんといいい女なんでしょう」と言ってから契ったら、出来た子供(島)は流産で、次の子供も満足な島になりませんでした。そこで、立場を逆にして、男であるイザナキから先に言葉を発したら良い島ができました。このことから、女性から先にプロポーズをするものじゃないとか、何事も男性が優先なのだと主張する人もいるようです。この人たちは、女性の恐ろしさを知らないのでしょう。いずれ手痛い仕打ちを受けることになるでしょうから、私はそういうことは思っても決して口にしません。

(※3) アマテラスの誕生

日本列島を生んだ男神・イザナキと女神・イザナミは、その後も次々と自然界に必要な神々を生みましたが、火の神・火之迦具土神(ホノカグツチノカミ)を生んだ時に、イザナミは陰部を火傷して死ぬ。すると、イザナミが火傷を負って苦しんで吐いた反吐や糞尿からも、また、怒ったイザナキが首を切った火之迦具土神の死体や、剣から滴った血からもたくさんの雷神や剣神が生まれました。

イザナミは死んで「黄泉国(よみのくに)」に行ってしまうのですが、妻を忘れられないイザナキは、後を追って黄泉国に行きます。しかし、そこに見たものは腐敗してウジがわいているイザナミの醜い姿でしたから、恐れおののいたイザナキはあわてて逃げ出すのですが、怒ったイザナミと黄泉の魔軍たちが追いかけてくるのを、桃の実を投げつけて、ようやく逃げ帰ることができたといいます。イザナキは夫婦の縁を切ると宣言すると、怒ったイザナミは毎日 1000 人の人間を殺すと叫んだので、イザナキは毎日 1500 人の子供を産ませようと言いました。これが史上初の離婚と生死に関する話です。

イザナキは、穢れを清めるために日向の国(宮崎県)橘の小門というところで禊ぎ(みそぎ)をしました。このときに身につけていた衣服や装身具からも、次々と神さまが誕生し、イザナキが最後に洗った左目から日神アマテラスオオミカミ(天照大御神/天照大神)、右目から月神ツクヨミノミコト(月読命)、鼻から海神スサノオノミコト(建速須佐之男命/素戔嗚尊)が生まれました。

アマテラスは後に天皇家の祖先となり、月神のツクヨミは日神のアマテラスとともに農林水産などの神さまとして祀られています。スサノオは父の命に背いて暴れ、最後は天界を追われて出雲の国に追放された。スサノオはアマテラスやツクヨミと同時に生まれたのに、自分だけが目からではなく鼻から生まれたので、ハナはだ面白くなかったのかもしれない。

(篠井純四郎)